

●技術者リーダー育成（全6回）コース 講座内容

コース名	技術者リーダー育成コース（神戸）		
科目名	技術者として成長するには		
講師名	小坂 利壽	授業日数	1日間（第1回）
講義目的 達成目標	自己の成長と企業や社会への貢献を目的として意識の活性化を図る。		
授業計画 講義内容	<p>1、09:30～12:00「講義・技術者としての成長」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 私が実践を通して学んだこと 2) 技術者とは 3) 成長過程で乗り越えなければならない壁 4) 知っておくべき知識 5) 技術者として成長する為のまとめ 6) 質疑応答 <p>2、13:00～16:15「実習・受講者のグループ別討議」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 技術者とし成長する為の課題抽出 2) 課題への対応討議 3) 討議内容の発表 <p>3、16:15～16:30「総括」</p>		

コース名	技術者リーダー育成コース（神戸）		
科目名	課題発見と課題解決法		
講師名	住元 義則	授業日数	1日間（第2回）
講義目的 達成目標	<p>職場において、数々の問題・課題に遭遇するが、それらの解決に対して、効果的に対応しているとは云えない場合が多く見られる。以下について、講義と演習により体得する。</p> <p>① 問題の捉え方について知る ② 問題の解決についての基本的な進め方を知る ③ 問題解決技法についての知識を吸収する</p>		
授業計画 講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 問題とは <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題と問題 2. 問題の見つけ方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 顕在化した問題 ・ 潜在的な問題 3. 問題解決の基本的な進め方について <ul style="list-style-type: none"> ・ 問題解決のステップ 4. 問題解決技法について <ul style="list-style-type: none"> ・ 各種の問題解決技法の紹介 5. 問題解決のための発想法について <ul style="list-style-type: none"> ・ 各種の発想法の紹介 6. 問題解決の演習 <ul style="list-style-type: none"> ・ 受講者が持つ問題に対して、ステップに従って、問題解決の実習 7. 演習結果の発表 <ul style="list-style-type: none"> ・ 演習結果の発表と講師による講評 		

コース名	技術者リーダー育成コース		
科目名	モチベーションを高める		
講師名	松本 隆	授業日数	1日間（第3回）
講義目的 達成目標	<p>「モチベーション」とは、もともとは「動機づけ」という意味であったが、現代では「やる気、意欲」という意味で使われることが多くなっている。この「モチベーション」つまり「やる気、意欲」は技術者自身（個人）にとっても、グループやチームで仕事を進める上でも大切である。そして、「モチベーション」を高め、人生や仕事の成果に結びつけることが、個人や組織に求められている。</p> <p>その「モチベーション」を高める方法に関する、理論、事例、手順等を講義とグループ・ディスカッションにより学ぶ。</p> <p>合わせて、技術者リーダーに必要な問題解決の基本的な手法の活用法についても実践的に学ぶ。</p>		
授業計画 講義内容	<p>①「モチベーション」に関する考え方と企業事例（講義とグループ・ディスカッション）</p> <p>②自分自身のモチベーションを高める（手順の紹介とグループ・ディスカッション）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在のやる気を過去と比較する→やる気の高さとその基（要因）とを分ける→・・・→行動しながら、やる気を高める <p>③モチベーションを高めるための要因分析 （問題解決の基本的な手法を作成・活用するためのグループ・ディスカッション）</p> <p>上記①～③のグループ・ディスカッションを通じて、各テーマに関する参加者の異なる見方・考え方を知り、新たな気づきを得て、日常業務で活用することができる。</p>		

コース名	技術者リーダー育成コース		
科目名	チームリーダーとして活躍するために		
講師名	清水 泰史	授業日数	1日間（第4回）
講義目的 達成目標	<p>チームリーダーとして活躍するためには、まずは自分が期待される役割を認識することである。さらに現状の自分を理解することにより、期待と現状のギャップが明らかになる。</p> <p>リーダーとして必要な能力要件を演習やグループ討論を中心に学び、最終的に信頼される上司となることを目指す。</p>		
授業計画 講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. リーダーとしての役割とあるべき姿 <ul style="list-style-type: none"> ・ リーダーとして期待される役割 ・ リーダーシップのスタイルを知る ・ 【演習】リーダーとして必要な4つの力 2. チームワークを考える <ul style="list-style-type: none"> ・ 【演習】人を動かすことの難しさを知る 3. PDCAは仕事の基本 <ul style="list-style-type: none"> ・ 【演習】効率的な仕事のサイクルで生産性を向上する 4. 信頼される上司になるためには <ul style="list-style-type: none"> ・ 【グループ討論】信頼される上司の要件 		

コース名	技術者リーダー育成コース		
科目名	部下育成と技術伝承		
講師名	藤定 正一	授業日数	1日間（第5回）
講義目的 達成目標	<p>人材育成と技術伝承は職場における永遠の課題であるが、昨今は内外の環境の変化もあり、より難しくなっている。本講座では、講義、事例研究、グループ討議を通して、基本的な考え方を理解すると共に、自職場における改善策のヒントを得る。</p>		
授業計画 講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 技術とは <ul style="list-style-type: none"> ・ 技術者、技能者、作業者の違い 2. 人材育成の考え方 <ul style="list-style-type: none"> ・ OJT, OffJT ・ 取り巻く環境変化 3. 技術伝承の考え方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 技術そのものの伝承——技術の標準化 ・ 技術創造の進め方の伝承——プロセスの標準化 4. 人材育成、技術伝承におけるマネジメント 5. 改善活動事例紹介 <ul style="list-style-type: none"> ・ 人材育成活動 ・ 開発プロセス革新活動 6. 自職場における人材育成または技術伝承の課題及び解決策について（グループ討議） <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題抽出 ・ 対策検討 ・ まとめ発表 		

コース名	技術者リーダー育成コース		
科目名	マネジメント力を高める		
講師名	大前 駿二	授業日数	1日間（第6回）
講義目的 達成目標	<p>1.エンジニアとして、又組織リーダー（候補）として「マネジメント力発揮方法」を理解し身に付ける。</p> <p>2.開発・技術・生産管理等の各視点からマネジメント力向上に向けた必要要件(コンピテンシー)を認識し応用するスキルを学習する。</p> <p>3.事例研究やグループ討議を通して、他社状況を知ると共に、自社分析も行いマネジメント力を発揮できる組織リーダー（候補）としてのカイゼン力向上を図る。</p>		
授業計画 講義内容	<p>1.テキスト、或いはパワーポイントによる講義</p> <p>①マネジメント力の定義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マネジメントの対象は何か？又、その醸成は何故必要か？ ・エンジニアとしてのマネジメント視点 <p>②マネジャー/リーダー（候補）に必要な要件(コンピテンシー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・階層別要件//職種（エンジニア）別要件/個人別要件 ・組織・企業視点/MOT(技術経営)視点/制度設計視点 <p>③マネジメント力向上のための事例研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製品加工会社での現場リーダー育成プラン・実践 ・設計会社再構築におけるリーダーの役割とモチベーション向上策の実例 *「コマツ」の人材育成システム紹介（適宜） <p>2.自職場での「マネジメント」に関する問題点の分析と披露</p> <p>①自職場における問題点分析</p> <p>“貴方は当事者としてどう対応（マネジメント）すべきか？”</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術・製品開発、技術・生産・品質管理視点 ・人間関係論（コミュニケーション）視点 ・製造現場での“ものづくり”視点他 <p>*演習シートを準備します、「問題点解決シミュレーション」を実践しましょう！</p> <p>②グループ討議し、共通の問題点を理解すると共に、他社状況を知り視野を広げる、と共に解決策を検討する。</p> <p>*アクションプランの策定に意欲的な方にはアドバイスします。</p>		